第17. その他（水産業関連取組事例）

（1）日高管内漁業士会の活動

地域漁業の振興にあたり、将来的に漁村地域の中核となり得る青年漁業者、また、漁村青少年の育成などに指導的な役割を果たしている全道の各漁業者に対して、北海道知事より「北海道漁業士」としての称号を付与しています。現在、日高管内には１６名の漁業士がおり、日高管内漁業士会として、地域の活性化、漁業の振興を目的に活動を行っています。

平成29・30年から引き続き、令和元年も札幌市内北海道農業近代化技術研究センターで「日高産水産物の直売会～日高の浜から届け隊～」を開催し、管内水産物や加工品のPR販売をしました。この日のために獲った真つぶなどの活魚をはじめ、さけなどの加工品、日高こんぶなどの乾燥品を、日高地区漁協青年部と女性部、漁業士会の三連合同で組織される「日高の浜から届け隊」が栄養面や調理法などを説明しながら販売しました。終了時には多くの商品が完売するほど大盛況でした。

また、来場者に「こんぶ採りから製品になるまで」という一連の作業を知ってもらうため会場入口に操業風景などの写真や昆布の実物を設置しました。写真を見て質問をする方もいて、漁業士が浜ことばを交えながら、対応しました。

※ イベントの様子

新ひだか町において、日高地区漁協青年部連絡協議会・日高地区女性部連絡協議会との交流大会を実施しました。交流会では、「地域漁業の活性化」という３会共通の目的のもと、互いの連携を大切にし、お互いの知識と技術を共有しあうため、「日高の水産のこれから」をテーマに意見交換等を行うことで、交流を深めました。

※ 交流会の様子

日高管内漁業士会は、今後もこうした活動を継続し地域を盛り上げていきます。

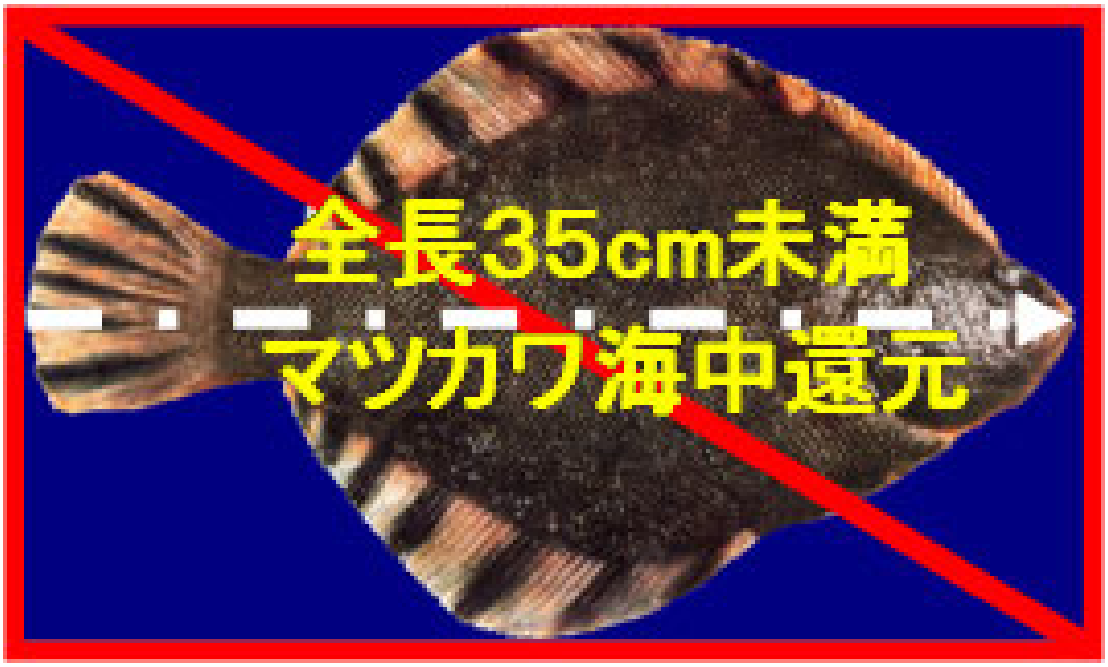
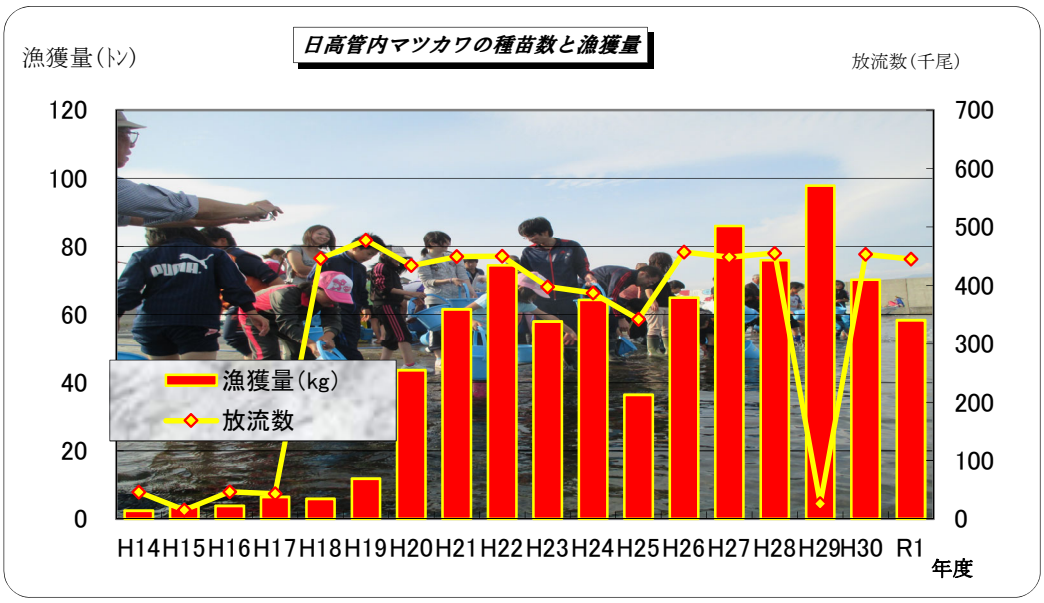
（2）王鰈（マツカワ）

当管内では、平成５年から試験的に種苗放流が開始され、放流数の増加に伴って漁獲も右肩上がりとなっています。

平成18年には北海道栽培漁業拠点センター（伊達市、えりも町）の供用が開始され、えりも町から函館市南茅部までのえりも以西太平洋海域では100万尾の種苗放流を行い、150ｔの資源造成を図る計画となっており、うち当管内各地より44.5万尾（令和元年度実績・標識及びイベント含む）が放流されました。

≪マツカワ資源管理≫

マツカワの資源造成を図る上で、放流後のマツカワ稚魚を適切に保護・管理・育成するため、函館市からえりも以西の太平洋海域において、「全長35cm未満のマツカワの海中還元」を主な内容とした海区漁業調整委員会指示が発動され、漁業者はもとより遊漁者も対象とした資源造成に取り組んでいます。



全長35cm未満のマツカワを採捕した時は、速やかに海中へ戻して下さい。